

有機たまねぎは、春に肥料を 使うことで、収量が安定して増えます

有機栽培：化学肥料や化学合成農薬に依存しない栽培法。
北海道は我が国の有機栽培面積の約4分の1を占める。



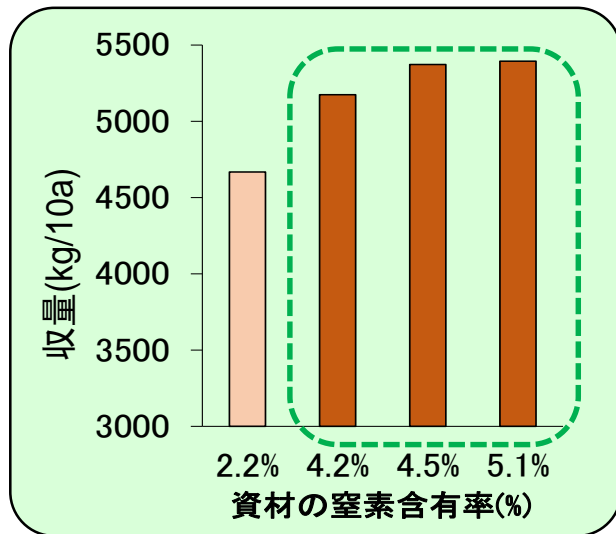
背景

- ・有機たまねぎは、使う有機質肥料の種類によって収量にばらつきがありました。
- ・たまねぎ苗を普通に植える時期に有機質肥料をまくと害虫がくるため、これまでは前年秋にまいていましたが、春先の融雪によって肥料成分が流れてしまう問題がありました。

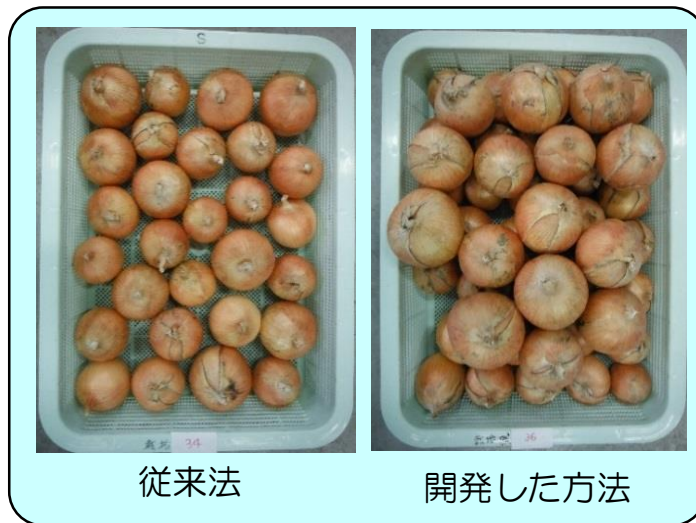
成果

収量が安定して増える有機質肥料の使い方を開発！

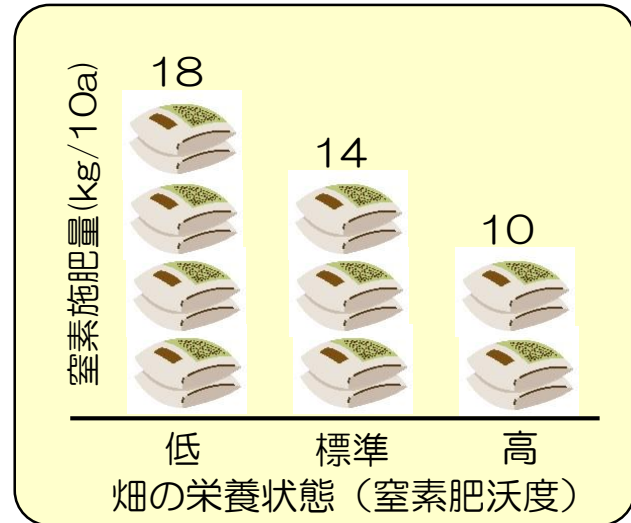
1 窒素成分が4%以上の肥料を用いることで、収量が安定します。



2 春に肥料をまくことで、収量が1割以上増加します。また4月中に苗を植えることで、害虫の被害を回避できます。



3 畑の栄養状態に応じて肥料の量を変えることで、収量を確保しながら、環境負荷や生産コストを低減できます。



期待される効果

- 有機たまねぎの安定生産と環境負荷の低減に有効です。
- 収量が安定して増えるので、生産コストも低くなります。